教育長だより　No. 16

２０２１年9月１０日

コミュニケーションが人を育てる

～ 職員の資質向上をめざして ～

　市役所の前を歩いていると、時々ゴミが落ちています。紙くずやペットボトル、時にはマスクもあります。

　先日の昼休み、たまたま空き缶が歩道わきに落ちていました。私の前を歩いていた職員さんはそのまま向こうへ。「気づかへんのかなあ？」と思いながら、私はそれを拾って自販機横の回収箱へ入れました。ちょうど後ろから役所に戻ってきた学校教育課の〇〇さんは、「教育長はよくゴミ拾いをされていますね。」と声をかけてくれました。私「学校（にいたころ）と一緒で、こんなん気になるねん。」と答えました。

　この事を教育研究所の吉井先生と話しました。「学校の先生と一緒やなあ。」と吉井先生。若手教員の支援で学校をまわっていると、よく似た場面に出会うそうです。例えば、教室のあちこちにゴミが落ちていても気にも留めずに授業を進めている先生。子どもたちの机がゴチャゴチャしたままの教室。一声「まず、机をまっすぐに並べましょう！」と言えば子どもたちは並べ直すのに・・・。

　結論から言えば、「気づいていない。」ということでした。気づくためには、まず「見ること」です。「見える」かどうかがポイントです。見えていない人がゴミを拾うことはできません。そして、その「見る力」をどう育てるのかということだと思います。子どもを育てる教員として子どもたちの変化に気づくことはとても大切です。それは学級経営だけでなく、授業でも同じです。特に「授業では、一人ひとりの子どもの『まなざし』に注目するんやで。」と、私はかつて先輩から教えてもらいました。今、みなさんの職場では、こんな話が語られているでしょうか。また、職員室で「先生、私、あの子が最近ちょっと気になるんやけど・・。」というような会話ができていたら、ステキな職場ですね。『同僚性』というのでしょうか。**気づいた人が発信する**。そして、**「気づき」を促す職場**って素晴らしいですね。「気づくこと」「見ること」など、まず職員研修が浮かびますが、同じ職場で職員同士が話をすることで学ぶことはいっぱいあります。職場のコミュニケーションがいかに職員の意識を高めるか、資質向上に寄与するのかなど、「まずは足元から」だと思います。

　また、これは学校や園のことだけではありません。複数の人がいる職場（現場）すべてに言えることだと思います。日ごろの「コミュニケーションが人を育てる」のだと思います。

　２学期早々、コロナで学級や学年閉鎖が出ています。そんな中、「コロナ不安」で学校を休んでいる子にタブレット貸与された学校があります。草津市のように（午後）全員持ち帰りの学習ではありませんが、自宅でわが子が学校の勉強の様子がわかると保護者さんには好評です。学校によっては、学年でタブレットを持ち帰らせてオンライン授業の練習をしていただいているところもありますが、もう少し時間がかかる所が多いと思います。（９月１０日現在三上小２年はオンライン学習を実施中です。）　みなさん、今、できる限りの支援をお願いします。